

## 旅立ちを祝う ～春らしい陽気の卒業式～

3月1日(日)第63回卒業証書授与式が挙行され、299名の卒業生が仙名城南高等学校第11期生として学び舎から巣立ちました。学級担任による卒業生の呼名が行われ、各学級の代表が学校長から卒業証書を授与されました。式後の「卒業を祝う会」では、MITCH-MANさんのライブ演奏やお世話になった先生方へのプレゼント贈呈、思い出のスライドショーなどが行われました。卒業生の旅立ちを祝う卒業式は、厳かな中にも感動と笑顔があふれる素晴らしいものになりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！



### 式 辞

寒さが厳しかった仙台の冬も終わりを告げ、春の訪れを感じる季節となりました。本日、仙名城南高等学校第63回の卒業式を迎えることができました。

本日、卒業されるみなさん。おめでとうございます。ご来賓のみなさん及び教職員一同とともに心よりお祝い申し上げます。あわせて、本日の卒業式までご支援・ご協力いただいた、ご家族の皆様・関係者の皆様へこころより感謝申し上げます。

皆さんがこの世に生を受けたのは、2007年のことでした。アメリカで初めての iPhone が発売され、デジタル社会が加速を始めた年でした。一方で、国内では年金問題や食品の偽装表示が相次ぎ、人々の「信頼」が大きく揺らいでいた時期でもありました。先の見えない不透明な空気が社会を覆い、大人たちが将来への不安を口にしていた、そんな時代です。

そんな混沌とした世相の中であって、皆さんの誕生は、ご家族や周囲の方々にとって、闇を照らす「希望の光」そのものでした。

今日の門出にあたり、私の大切な信条を皆さんに贈りたいと思います。それは「過去を生かすも殺すも、これからの皆さんの生き方、すなわち『今』にかかっている」ということです。

唐代の詩人、李白は、その有名な序文で「光陰は百代の過客なり」という言葉を残しました。時間は一方通行です。過去から現在、そして未来へと、永劫に続く旅人のように、止まることなく過ぎ去っていきます。昨日のあなたに戻ることは二度とできません。人生とは、戻ることのできない一回きりの旅なのです。

私たちが陥りがちな罫は、心が「今」を留守にしまうことです。済んでしまった過去の失敗を引きずり、「ああすればよかった」と、どうにもならないことを悔やんで立ち止まる。あるいは、まだ来ぬ未来に対して「もし失敗したらどうしよう」と、取り越し苦労をして足をすくませる。しかし、過去はすでに記憶の中にしかなく、未来はまだ影も形もありません。私

たちが何かを変えることができる場所は、常に「今、ここ」という一瞬しかないのです。

比叡山の「千日回峰行」を成し遂げた、光永圓道(みつなが えんどう)さんという方が同じようなことを言っておられました。

千日回峰行とは、7年という歳月をかけ、比叡山の山中を毎日約30キロ、雨の日も雪の日も、怪我をしても休まず歩き続ける過酷な荒行です。光永さんは、後にこう語っています。「1年先、2年先のことを考えると、とても続けられるものではなかった。ただ、その一瞬一瞬、目の前の辛さや困難さを乗り越えることだけを考えたから、7年間を耐えられた。その瞬間に集中した結果として、行が達成できたのだ」と。

この言葉は、皆さんのこれからの人生にも通じる真理です。大きな目標を前にして、その道のりの遠さに圧倒され、「自分には無理だ」と諦めてしまいそうになることがあるでしょう。しかし、どんなに高い山も、一步一步の積み重ねでしか登ることはできません。未来の不安に心を奪われるのではなく、目の前の一刹那(せつな)を生き切る。その「今」の積み重ねが、気づけば遥か高みへと皆さんを運んでくれるのです。

人間としてこの世に生かされている以上、与えられた命の火を一瞬、一瞬、最大限に燃え上がらせてください。一瞬を極める。一刹那を大事に生き切る。その姿勢こそが、皆さんの人生をより豊かで、有意義なものへと変えていくはずですよ。

卒業生の皆さん。皆さんは希望の光としてこの世に現れました。そして今日、この学び舎で得た経験と友情という翼を携え、新たな空へと飛び立ちます。これからの人生、迷ったときこそ「今、ここ」に立ち返ってください。過去を悔やまず、未来を恐れず、ただ目の前の一瞬を全力で生き抜いてください。

皆さんの前途が、あの誕生のときと同じように、光り輝くものであることを切に願い、式辞といたします。

校長 伊藤 俊



## みらい東北高校生国際サミットで城南生大活躍！

3月13日(金)・14日(土)の2日間、東北工業大学八木山キャンパスを会場に「令和7年度みらい東北高校生国際サミット」が開催されました。文部科学省から WWL 事業の指定を受け、その3年間の総まとめとして、今回は「全国高校生フォーラム成果発表」、「探究活動成果発表」、「テーマ別ワークショップ」などを行いました。台湾からのオンライン参加もあり、国際サミットにふさわしい充実した内容でした。WWL 拠点校の本校生徒は、発表はもちろんのこと、準備や司会などで、連携校や協力校の皆さんと協力し、大いに活躍しました。また、普通科の特進コース・総進コースの1年生も全員「探究活動発表」に参加し、今後の探究活動のヒントをたくさんもらいました。「令和7年度みらい東北高校生国際サミット」のテーマは「未完成レール～正解のない未来へ走る～」です。先を見通せない 21 世紀。社会の担い手となって活躍する若者たちが、東北の未来を課題意識を持って考える、とても貴重な 2 日間となりました。本校は長年重点的に「探究」に取り組んできました。この WWL 事業の指定は今年度で終わりますが、次年度以降もこの事業の大きな財産であるネットワークを生かして「自走」する形で、「みらい東北」を担う高校生を育てていきたいと考えています。

※WWL(ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業)



## 探究ポスターセッションで学びの成果を発表

3月12日(木)に、1・2年の総進コース合同で「探究ポスターセッション」を行いました。これは、「探究基礎」「探究Ⅰ」の授業で調査してきたことをプレゼンテーション、ポスターセッション形式で発表し、意見を交換することで、多面的に物事を見る力を養い、自分たちを取り巻く様々な課題について、より深く考える学習活動です。東北工業大学から7名、東北文化学園大学から2名の先生方にもお越しいただき、講評や助言をしていただきました。

仙台城南高校では、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく探究的な学習活動をこれからも推進していきたいと思ひます。

